

上映スケジュール 上映時間は決まり次第 HPにてお知らせいたします

	1	2	3
10/7 (金)	映画はアリスから始まった	人生フルーツ	
10/8 (土)	テレビで会えない芸人	ヤクザと憲法	
10/9 (日)	ニューヨーク公共図書館 エクス・リプリス	女優 原田ヒサ子	
10/10 (月)	杜人 (もりびと) ～環境再生医 矢野智徳の挑戦	夢みる小学校	
10/11 (火)	歩いて見た世界 ブルース・チャットウィンの足跡	ホームレス理事長 ― 退学球児再生計画 ―	
10/12 (水)	さよならテレビ	世界の果ての通学路	女優 原田ヒサ子
10/13 (木)	杜人 (もりびと) ～環境再生医 矢野智徳の挑戦	人生フルーツ	
10/14 (金)	テレビで会えない芸人	世界の果ての通学路	
10/15 (土)	さよならテレビ	夢みる小学校	
10/16 (日)	人生フルーツ	歩いて見た世界 ブルース・チャットウィンの足跡	
10/17 (月)	映画はアリスから始まった	杜人 (もりびと) ～環境再生医 矢野智徳の挑戦	
10/18 (火)	世界の果ての通学路	ヤクザと憲法	
10/19 (水)	夢みる小学校	ホームレス理事長 ― 退学球児再生計画 ―	
10/20 (木)	ニューヨーク公共図書館 エクス・リプリス	女優 原田ヒサ子	

女優 原田ヒサ子



世界の果ての通学路



人生フルーツ



歩いて見た世界
ブルース・チャットウィンの足跡



夢みる小学校



10月7日(金)～10月20日(木)

鑑賞料金

一般：1,500円 / 大学・専門、高校生以下、シニア：1,200円 / TCG 会員、各種割引適用

★「女優 原田ヒサ子」1,000円均一

★「ニューヨーク公共図書館 エクス・リプリス」一般：1,900円 / 大学・専門、高校生以下、シニア：1,200円 / TCG 会員、各種割引適用

※特別興行の為株主優待券は使用いただけません

JR 大森駅・東口 西友大森店 5F

テアトルシネマグループ

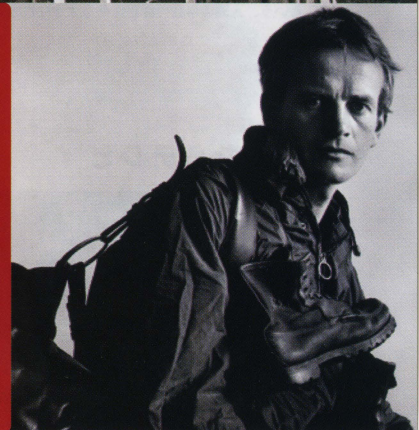
キネカ大森

03 (3762) 6000 ttcg.jp



キネカ大森 ドキュメンタリー 映画祭 2022

Kineca omori
documentary film festival



キネカ大森セレクト！ 選りすぐりの優れたドキュメンタリーを一挙上映！

公開当時大ヒットした作品から、配信を一切していない劇場公開のみの貴重な作品まで、幅広い作品をそろえました。

会場

キネカ大森 (東京都品川区南大井 6-27-25 西友大森店 5F)

開催期間

2022年10月7日(金)～2022年10月20日(木)

キネカ大森セレクト！選りすぐりの優れたドキュメンタリーを一挙上映！

公開当時大ヒットした作品から、配信を一切していない劇場公開のみの貴重な作品まで、幅広い作品をそろえました。

歩いて見た世界 ブルース・チャトウィンの足跡



監督・ナレーション：
ヴェルナー・ヘルツォーク
2019年/イギリス・スコットランド・フランス/85分/ Nomad: In the Footsteps of Bruce Chatwin
配給：サニーフィルム ©SIDEWAYS FILM

“神話”を旅したと云われる、伝説の作家ブルース・チャトウィン。生前のチャトウィンと親交があった巨匠ヴェルナー・ヘルツォークが、その放浪の足跡を辿る――

彗星のように現れてこの世を去っていったイギリス人作家ブルース・チャトウィン。この作品は彼の没後30年に、生前チャトウィンと親交を結んだ巨匠ヴェルナー・ヘルツォークが制作したドキュメンタリーである。ヘルツォーク監督は、パタゴニアや中央オーストラリアのアボリジニの地など、チャトウィンが歩いた道を自らも辿り、チャトウィンが魅了された「ノマディズム/放浪」という、人間の存在の根底にある大きな概念を探索する旅に出る。

映画はアリスから始まった



監督：
バメラ・B・グリーン
ナレーション：
ジョディ・フォスター
2018年/アメリカ/103分/ Be Natural: The Untold Story of Alice Guy-Blaché
配給：パンドラ ©2018 Be Natural LLC All Rights Reserved

クローズアップ、特殊効果、カラー、音の同期…現在の標準的な映画製作技法を次々と生み出し、世界初の劇映画『キャバツ畑の妖精』や、超大作『キリストの誕生』など1,000本以上を監督した映画監督・製作・脚本家として、世界映画史に大きな足跡を残したアリス・ギイ。

リュミエール兄弟やジョルジュ・メリエスと並ぶ映画のパイオニアであり、ハリウッドの映画製作システムの原型を作り上げた世界初の映画監督となった女性は、なぜ映画史から忘れ去られていたのか？アリス・ギイの功績とその生涯をめぐる謎が今、明らかになる。

テレビで会えない芸人



監督：
四元良隆、牧祐樹
プロデューサー：
阿武野勝彦
2021年/日本/81分
製作・配給：東海テレビ放送 配給：東風 ©2021 東海テレビ放送

芸人、松元ヒロ。かつて社会風刺コント集団「ザ・ニュースペーパー」で数々の番組に出演し人気を博した。しかし90年代末、彼はテレビを棄て、主戦場を舞台に移す。政治や社会問題をネタに笑いで一言モノ申す。松元が20年以上語り続ける『憲法くん』は、日本国憲法を人間に見立てた演目。井上ひさしが大絶賛し、永六輔は「ヒロくん、9条を頼む」と言い遺した。その芸は、あの立川談志をしてこう言わしめた。「最近のテレビはサラリーマン芸人ばかり。本当に言いたいことを言わない。松元ヒロは本当の芸人」。けれど、いや、だからこそ、いまテレビで彼の姿を見ることはない…。

なぜ松元ヒロはテレビから去ったのか？なぜテレビは松元ヒロを手放したのか？そして本作はその答えを見つけられたのか？

ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス



監督：
フレデリック・ワイズマン
2017年/アメリカ/205分/ Ex Libris: The New York Public Library
配給：ミモザフィルムズ、ムヴィエラ ©2017 EX LIBRIS Films LLC - All Rights Reserved
●特別料金設定有り(詳細は裏面にでご確認下さい)

世界中の図書館員の憧れの的であり、ニューヨーク有数の観光スポット。本作の主役は、荘厳な19世紀初頭のボザール様式の建築で知られる本館と92の分館からなる世界最大級の〈知の殿堂〉ニューヨーク公共図書館。監督は2016年にアカデミー名誉賞を受賞したドキュメンタリーの巨匠、アメリカ映画界の“生ける伝説”フレデリック・ワイズマン。12週間に及んだ撮影から、この場面の次はこの場面しかないという厳格な選択による神業のような編集により、この図書館が世界で最も有名である理由を示す事で、公共とは何か、ひいてはアメリカ社会を支える民主主義とは何かをも伝える。

図書館の未来が重要な意味を持つ、必見の傑作ドキュメンタリー。

さよならテレビ



監督：
土方博氏
プロデューサー：
阿武野勝彦
2019年/日本/109分
製作・配給：東海テレビ放送 配給協力：東風 ©東海テレビ放送

今は昔。テレビは街頭の、お茶の間の、ダントツの人気者だった。豊かな広告収入を背景に、情報や娯楽を提供する民間放送は、資本主義社会で最も成功したビジネスモデルの一つだった。しかし、その勢いはもうない。「テレビは視ない」と公言することがクールだった時代を通り越し、今はテレビを持たない若者も珍しくない。マスメディアの頂点でジャーナリズムの一翼を担ってきたテレビが、「マスゴミ」と揶揄されるようになって久しい。これは市民社会の成熟か、あるいはメディア自身の凋落か…。今、テレビで、何が起きているのか？『ホームレス理事長』『ヤクザと憲法』のクルーが、自社の報道部にカメラを入れた。薄っぺらいメディアリテラシーは、もうたくさん。テレビの今を活写する。

女優 原田ヒサ子



制作・撮影・編集・監督：
原田美枝子
出演：
原田ヒサ子、石橋大河
2019年/日本/24分
©Mieko Harada
●鑑賞料金1,000円均一

認知症が進み、まるで我が事のように娘の人生を語りだした、女優・原田美枝子の母、ヒサ子。認知症の人は、自分が一番輝いていた時代に戻ることが多いが、自分以外の人の記憶を語るといことは珍しいという。母の記憶が娘の人生とオーバーラップしていることに驚いた美枝子は、母の人生を振り返り、母の心の中に残されていた夢を叶えようと思い立つ。15歳から女優として、黒澤明、増村保造、勝新太郎、深作欣二、平山秀幸といった錚々たる映画監督の作品に出演し、45年もの間カメラの前に立ってきた美枝子が、初めてカメラの後ろから母を見つめる。そこに映し出されたのは、娘と一心同体で生きてきたヒサ子の時間。スクリーンを通してそれを共有し、私たちはそれぞれの人生を振り返る。

ホームレス理事長 ― 退学球児再生計画 ―



監督：
土方宏史
プロデューサー：
阿武野勝彦
2013年/日本/110分
製作・配給：東海テレビ放送 配給協力：東風 ©東海テレビ放送

やんちゃな退学球児とちょっと変わった大人たち
いや、ずいぶん変わった大人たちのお話です。

様々な事情で高校をドロップアウトした球児たちに「再び野球と勉強の場を」と山田豪理事長がNPO ルーキーズを創設した2010年。愛知県常滑市のグラウンドには白球を追う若者の声が響いている。でも、何かがおかしい。「大人も泥まみれになって子供と一緒に這いあがる。それがルーキーズの理念、魂」熱っぽく語る理事長の自宅は、真っ暗。電気・ガス・水道が止まっていた。ルーキーズは資金繰りに窮していた。それでも、理事長は諦めない。寄付集めに奔走し、消費者金融に駆け込み、取材クルーにまで借金を願ひ出る。挙句、カメラの前でヤミ金の借入申込にペンを走らせた。

人生フルーツ



監督：
伏原健之
プロデューサー：
阿武野勝彦
2016年/日本/91分
製作・配給：東海テレビ放送 配給協力：東風 ©東海テレビ放送

むかし、ある建築家が言いました。家は、暮らしの宝宝箱でなくてははいけない。愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンの一隅。雑木林に囲まれた一軒の平屋。それは建築家の津端修一さんが、師であるアントニン・レーモンドの自邸に倣って建てた家。四季折々、キッチンガーデンを彩る70種の野菜と50種の果実が、妻・英子さんの手で美味しいごちそうに変わります。刺繍や編み物から機織りまで、何でもこなす英子さん。ふたりは、たがいの名を「さん付け」で呼び合います。長年連れ添った夫婦の暮らしは、細やかな気遣いと工夫に満ちていました。ナレーションをつとめるのは女優・樹木希林。ふたりの来し方と暮らしから、この国がある時代に諦めてしまった本当の豊かさへの深い思索の旅が、ゆっくりとはじまります。

世界の果ての通学路



監督：
バスカル・ブリッソン
2012年/フランス/77分/ Sur le chemin de l'école
配給：キノフィルムズ ©2013 - Winds - Ymagis - Herodiade

あなたは信じられますか。毎日往復30kmの通学路を、たった4時間で駆け抜ける兄妹がいることを。

日本をはじめ、先進国では子どもが教育を受けることは義務であり権利とされている。学校は徒歩圏内、もしくはスクールバスや公共交通機関で通える範囲に設置されているが、本作に登場する4人の子どもの教育環境は全くそうではない。見渡す限り人のいないパタゴニア平原を、馬に乗って通学する兄妹がいることを。別の大陸、違う言語、宗教、生活環境の中で暮らす4人の子どもたちは、真っ直ぐな瞳で同じ思いを語る。「夢をかなえたいから」世界の果ての通学路から、希望に満ちた地球の今と未来が見えてくる。

ヤクザと憲法



監督：
土方宏史
プロデューサー：
阿武野勝彦
2015年/日本/96分
製作・配給：東海テレビ放送 配給協力：東風 ©東海テレビ放送

実録じゃなくて、これは本物 ヤクザの世界でカメラが回る。

暴力団対策法、暴力団排除条例が布かれ、ヤクザは全国で6万人を割った。この3年で2万人が組織を離脱した。しかし数字だけでは実態はわからない。ヤクザは、今、何を考え、どんな暮らしをしているのか？大阪の指定暴力団「二代目東組二代目清勇会」にカメラが入る。会長が15年の実刑判決を受けた殺人事件は暴対法のきっかけとも言われる。組員の生い立ちとシノギ、部屋住みを始めた青年と実の子のように可愛がるオジキ、そして、組員の逮捕、家宅搜索の瞬間がやってくる…。会長は「ヤクザとその家族に人権侵害が起きている」と語りはじめた。ヤクザと人権…。一体、何が、起きているのか？

夢みる小学校



監督・撮影・編集：
オオタヴィン
2021年/日本/91分
配給：きらくひと ©まほろばスタジオ

宿題がない、テストがない、「先生」がいない。

「きのくに子どもの村学園」の子どもたちは「プロジェクト」とよばれる体験学習の授業を通じて、自分たちでプロジェクトを運営し自らの頭で考えます。「楽しくなければ、学校じゃない」と、子どもの村のスタッフは口をそろえます。キラキラした目で笑顔で学ぶ小学生の姿を見た事がありますか？学校って、本当はこんなにわくわくする場所だったのです。

学校観が180度変わる“うれしい衝撃の授業風景”をご覧ください。